

平成29年度 学校評価（自己評価）分析結果について

1 はじめに

今年度の学校評価（自己評価）は、昨年度までとは評価指標を大きく変更するとともに、回答については、教職員一人一人の自己の今年度の取組を評価するものであるため、昨年度までとの経年変化を見ることはできませんが、教職員一人一人の評価が、学校全体の評価であるということを踏まえ、今回の評価の数値や記述等に基づき、各学部・分掌部の反省の参考にし、来年度の運営の方針に生かしていただきたいと考えています。

2 学校評価（自己評価）の分析について

I 学校経営

- ・全ての項目において、3.2を下回っていないが、3.5を上回る項目も見られない結果となっています。
- ・その中でも、6の「業務を無理なく進めることができている」の項目が低くなっていることから、円滑な業務推進の方策を検討する必要があると考えられます。
- ・また、2の「学校経営方針を意識した学校運営への参画」、5の「学部及び分掌等の組織的な運営への積極的な参加」の項目も低くなっていることを踏まえ、教職員一人一人の学校運営、学部・分掌運営への参画意識を高める必要があると考えられます。

II チームとしての協働体制

- ・12の「時間管理を確実にし、優先順位を考えた業務の推進」が3.1と低くなっていることを踏まえ、教職員一人一人が時間管理をしっかりと行うとともに、経験年数の浅い教職員に対しては、管理職や先輩教員などによる業務の進行管理をしたり、負担を軽減したりする取組を行う必要があると考えます。
- ・一方で、7の「教員間での日常的な情報交換」や11の「報告・連絡・相談・確認の徹底」などは3.56と高くなっていることから、教員間の協働体制への意識は高いと考えられます。

III 教育課程・学習指導

- ・全12項目中5項目で3.2を下回り、特に15の「『社会に開かれた教育課程』の実現を意識した取組」、16の「他学部との教育課程の連続性と系統性を意識した教育課程の編成・実施・評価・改善」の項目については3.0を下回る結果となっています。
- ・教育課程は教務部だけの問題ではないですので、教員一人一人が教育課程の理解を深め、適切な編成・実施・評価・改善に対する意識をもつことが大切です。
- ・このことを踏まえ、特に教務部や各学部において教育課程についての理解を深めるための取組を推進していく必要があると考えます。
- ・教育課程の理解を深めることにより、学校運営に対する参画意識の高まりや「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・評価の重要性等についての理解が深まると考えられますので、学習指導要領改訂に向けて、教職員の教育課程の理解に向けた各部署での取組の検討をお願いします。

IV 保健管理・安全管理

- ・全8項目中4項目で3.5を上回り、特に32の「服務規律の保持や情報モラルに対する危機管理意識」の項目については、3.6を上回り、教職員一人一人が服務規律を意識している結果となりました。今後も服務規律についての意識を高くもち児童生徒の模範となるようお願いします。
- ・一方で30の「児童生徒が自分自身で危険から身を守るための指導」の項目は3.2を下回り、情報モラル教育や防災教育の充実を図る必要があるとの認識の結果と考えられます。

V 生徒指導・道徳教育

- ・33の「児童生徒の見本となるような行動や言動を常に心がけている」34の「いじめのない学校づくりに向けた指導」の項目については3.5を上回り、教職員一人一人が日常の指導の際の言動等を意識するとともに、いじめ未然防止に向けた取組に対して意識をもっているという結果になりました。今後も継続して取り組んでいただきたいと思えます。
- ・一方で、37の「『考え・議論する道徳』を目指した授業づくり」の項目は3.00と低い評価となっていることから、今後も「特別の教科 道徳」に関する校内研修を計画的に実施するとともに、多くの教員が「道徳教育」に関する研修等に積極的に参加できるよう校内体制を整備する必要があると考えます。

VI センターの機能・校内支援

- ・38の「各種教育相談事業やパートナー・ティーチャー派遣事業などを通じた、地域の特別支援教育の向上」の項目については3.2を下回っており、コーディネーターの教員以外は、地域の特別支援教育の中には本校も含まれること、リーダー校として専門性を高める認識をもつことが必要と考えられます。
- ・教育課程の評価でも低い評価となった「社会に開かれた教育課程」も合わせて、教職員一人一人が意識した取組を推進する必要があると考えます。

VII 保護者・病院・関係機関との連携

- ・43の「地域の社会資源を活用した効果的な学習活動の工夫」、45の「キャリア発達の視点を踏まえ、将来の生活と社会とのつながりを意識した学習指導と進路指導」の項目に付いて3.2を下回っています。
- ・病院併設の特別支援学校ということもあり、社会資源を活用した取組について、積極的に進めることが難しいと考えられますが、就労体験学習や移動図書館、読み聞かせサークルの活用など、現在推進している更なる充実も含めて、児童生徒に必要な内容をどのようにすると可能になるかという視点で本校としてできる社会資源の活用について考えていく必要があると考えます。
- ・キャリア発達の視点については、校内研究の推進と合わせて、教職員一人一人が意識した取組となるよう工夫する必要があります。

VIII 校内研究・研修

- ・全ての項目において、3.2を下回っていないが、3.5を上回る項目も見られない結果となっています。
- ・VII-45の項目の結果も踏まえて、学校全体でキャリア教育についての理解を深めていくことができるよう、校内研究の充実に向けた取組を今後も継続して行っていく必要があると考えます。
- ・今年度は国語科と道徳科の研究授業の際に指導主事を招いての校内研究を実施しましたが、今後も、学校の課題と職員のニーズを踏まえた校内研修の充実を図っていく必要があると考えます。

IX 学校予算・事務手続き等

- ・全ての項目において、3.2を下回っていないが、3.5を上回る項目も見られない結果となっています。
- ・教務部と事務部の連携のもと、適切に予算を執行することができるよう、今後も継続した取組を行っていく必要があります。
- ・また、書類等の期日までの提出や出勤簿の押印など、基本的な事項を教職員全員が意識して取り組んでいくことが大切になります。

3 学校評価（自己評価）や児童生徒アンケートを踏まえて検討してもらいたい事項

平成32年度に予定されている学校の機能移転やここ数年の教職員の異動に伴う、年齢構成や専門性の担保等と併せて、今年度の学校評価（自己評価）や保護者アンケート、児童生徒アンケートの結果を踏まえ、よりよい学校づくりに向けた具体的な方策や改善策を検討していただきたいと思っております。

○ 学校運営の視点から

(1) 全ての教職員が学校運営に対しての参画意識をもち、チームとしての協働体制のもと、教育活動や業務の推進に当たるための意識や校内体制、専門性の向上等について（各学部・分掌部）

- ・「Ⅰ 学校経営」における「業務を無理なく進めることができている」、「Ⅱ チームとしての協働体制」における「時間の管理」の項目がともに低い評価となっていることから、円滑に業務を進めるための校内体制の在り方や各部署内での工夫などについて検討をお願いします。
- ・また、記述から学部・分掌の職員構成のアンバランスさの指摘もありますが、この点については、初任段階教員層の割合が高いという本校の状況を踏まえつつ、その状況を利点に変える視点を持ちながら、一人一人が自分の与えられた仕事を適切に進めることができるために、どのようなことが必要なのかという点からも検討をお願いします。
- ・「Ⅲ 教育課程・学習指導」については、3.2を下回る項目が多いということ踏まえ、各学部・分掌部において、新学習指導要領の及びそれに基づいた教育課程の改善・充実に向けた取組について検討をお願いします。

(2) 保護者・病院・地域と連携した教育活動の推進について（各学部・分掌部）

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、保護者・病院・地域と連携した教育活動を積極的に展開する必要があります。本校は病院併設の特別支援学校であることから、病院との共通理解のもと、教育活動を展開することが重要です。学校として、病院に教育活動を理解してもらおうとともに、病院の考えを踏まえた教育活動を充実させるための工夫や改善点などについて検討をお願いします。

○ 教育活動充実の視点から

(1) 児童生徒一人一人の「主体的・対話的な深い学び」を実現するための授業改善に向けた取組について（各学部・教務部、研究部）

- ・自己評価において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の項目において低い評価となっており、学習指導要領改訂に向けて、教職員一人一人の授業改善に向けた取組が必要です。そのため、各学部において、新学習指導要領の理解を深め、学習指導要領の示す方向性に基づいて、授業改善の取組について検討をお願いします。

(2) 児童生徒間の人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上に向けた取組について（各学部、生徒指導部、総合支援部、保健体育部）

- ・児童生徒アンケートの結果から「先生たちは、いろいろ工夫をして教えてくれる」「先生たちは、自分たちが努力したことを認めてくれる」「先生たちは、困ったときにすぐに相談にのってくれる」は高い評価となっていますが、「学校や病棟に、何でも話せる友達がいる」は低い評価となっています。教員との関わりについてはおおむね高い評価となっていますが、児童生徒間の関わり方や他校との交流の在り方も含めて検討をお願いします。

(3) 児童生徒の発達の段階や障害特性や認知特性を踏まえた指導の充実を図るための教職員一人一人の専門性の向上に向けた取組について（各学部・分掌部）

- ・病弱教育の専門性の担保と継承に向け、本校の果たすべき役割は大きいものがあります。本校は、経験年数が浅い教員の割合が多いですが、それぞれの持ち合わせる力を生かし合いながら、専門性を高めていくことが大切です。
- ・一人一人の専門性を高め、学校全体としての教育力を高めるための、協働性を磨くための取組についてアイデアを出してみてください。